

ファーストバック日本総代理店
株式会社 インターコスモス
 —東京/大阪/名古屋/福岡/札幌/仙台—
 製本、ラミネート関連機材の
 リーディングカンパニー
www.inter-cosmos.co.jp

「長崎EV&ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)」にはトヨタ自動車や日産自動車、NEC、パオニア、富士通、三菱電機、九州電力などが地元企業とともに参加。国土交通省や経済産業省、慶応義塾大学といった約100の企業・団体や自治体が名を連ねる。金子原二郎長崎県知事は同日の発足式で「EV推進は経済活性の有効手段。長崎県は未来型観光

電気自動車(EV)や次世代高度道路交通システム(ITS)、風力・太陽光発電システムなどを運動した新サービスの実証試験が長崎県五島市で始まる。産官学を巻き込んだ協議会が8日に発足、日本版「マイクログリッド(小規模分散型電源)」の構築を目指す。観光に次ぐ新事業の創出を目指す長崎県だけではなく、EVやITSの普及を目指す自動車・電機メーカーにも絶好のアピールの場となりそうだ。

行して営業活動を進めている。野崎健次・新エネルギーグループ長は「1年から1年半後に実際の

廃棄物からメタンガスやガスを生成する「ビル・バイオマスター」(東京都江東区の清水建設東京本工場)

長崎県 離島で「マイクログリッド」実験

EV核にエコ発電・供給網

システムを整備し、次世代エネルギーインフラの先進地域を目指す」と意気込みを強調した。実験では、2009年度中に長崎県が購入予定の電気自動車に、次世代ITS対応の車載器を設置する。車は三菱自動車「i-MiEV(アイ・ミープ)」を中心に100台を調達。来春から五島市などで観光客対象の情報を集約。参加メンバーは、長崎エビッツが実験で得た情報を活用しながら電力を安定供給する次世代電力インフラ「マイクログリッド」の構築だ。

太陽光発電や風力発電は発電量が波があるのが難点。そこで電力をEVの蓄電池にいったんためて、夜間や無風時に家庭やオフィスで使う。長崎県産業労働部の上村昌博部長は「電気事業法や道路運送車両法などの規制をクリアすれば特区申請

「長崎エビッツ」が取り組む実験例

ITS搭載車
カーナビの画面で目的地を設定、同時にサービスを選択
専用アンテナ
最新情報を受発信

例)観光チャンネルを選んだ場合

- *カーナビが目的地までの観光情報をバスガイドのように音声で紹介
- *ドライブ中に近くで開催されるイベントなどの情報を提供、その場でチケットなどの予約・決済も可能
- *歴史遺産や観光施設の歴史や詳細を動画と音声で解説
- *ホテルの予約・決済
- *土産の購入・決済、受け取り場所の指定
- *充電が必要な時、近くの充電施設まで案内
- *イベントのチケットを購入した場合、イベント開始に間に合うように誘導

「長崎エビッツ」設立会議
 議であいさつする金子原二郎長崎県知事

長崎EV&ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)設立会議



隠れた都市型エネルギー

企業
J R東日本
バイオエナジー (三菱商事子会社などが出資)
東京ガス
神鋼環境ソリューション(神戸製鋼所子会社)
バイオエタノール・ジャパン・関西(大成建設などが出資)

トヨタ・NEC 九電など参加 まず「未来型観光」推進

も目指す」と話す。マイクログリッドは欧州が先行。デンマークでは米IBMや独シーメンスが参加した実験が3月から始まり、日産・仏ルノー連合もEVの供給を決めた。長崎エビッツは日本が高い技術力を誇る次世代ITSを基幹システムに加え、幅広いサービスで独自色を出す。五島市は421平方キロ。走行距離が短く、坂が多いなど、EVの試験に向く。離島のためかえってインフラを整備しやすいという。協議会の関連産業はすそ野が広く、企業誘致の可能性を秘める。珍しさから観光客が増える期待も膨らむ。

ただ、課題も残る。長崎エビッツは勉強会的な要素が根強く、県が参加メンバーの協力を得られず、実験の箱庭に終わらせないよう民間の知恵を引き出す工夫が欠かせない。

(長崎支局長 佐々木聖)

